

【2024年度 事業計画】

I. 放送関係の各種事業の企画と実施、学会、講座、コンクール等への協力

1. 全国放送教育研究会連盟・NHK主催の第71回NHK杯全国高校放送コンテスト
(講師・審査員として協力、協会賞贈呈)
 2. 協会及び協会員主催による作家育成(放送作家・脚本家含む)を目的としたセミナーの実施
 - ・セミナー「藤森いずみ脚本塾」 2024年5月11日開講
 - ・セミナー「ラジオドラマを書こう」 2024年7月7日開講予定
 - ・NHK後援「創作テレビドラマ大賞」公開講座
「創作ラジオドラマ大賞」公開講座
- 他

II. 未来を担う若手脚本家の発掘と育成

- 「創作ラジオドラマ大賞」脚本公募
(共催:NHK 後援:放送文化基金)
- 「創作テレビドラマ大賞」脚本公募
(共催:NHK 後援:NHKエンタープライズ、放送文化基金)

III. 協会の広報活動

1. 協会及び協会員の活動を紹介するホームページとSNSの維持・管理・更新
2. 協賛団体(株)EDIT運営のサイトMonjaにて会員リレーコラムを毎週日曜に掲載
3. 「放送作家の番組証言アーカイブ」を協力団体としてサポート

IV. 放送文化の向上に寄与した団体および個人の表彰

[功労者顕彰]

石井美夏、伊藤和典、木崎徹、後藤直、小林悦子、小林克彰、清水有生、東海林桂、
城市貴夫、鶴間政行、デーブ・スペクター、外池省二、東多江子、星みつる、益子強

VI. その他の活動

・「市川森一・藤本義一記念 東京作家大学」への協力

平成27年4月に開講した作家養成スクール「東京作家大学」のカリキュラム作成・講師招へい業務に協力(運営母体の株式会社 大阪教育研究所は賛助会員として日本放送作家協会の運営維持に協力)。10年目は5月に開講。
渋谷校、横浜校、大宮校にて実施。オンライン講座も強化している。
(活動内容については東京作家大学HPを参照してください)

Ⅶ. 支 部

(1)関西 (2)中部 (3)九州 (4)北海道 (5)中国・四国

各支部とも管内における文化事業への参加、協力、地域高校等の校内放送関係事業の支援等、それぞれ支部の特殊性に応じて実施

(1) 関西支部

1) 心齋橋大学 第37期生の開講

関西支部の放送作家が中心となって講師を務める「心齋橋大学」の37期生を募集して開講する。

リモートによる授業も充実させ、新たな講座開講にも取り組む。

2) YouTube「がらがらがっしょん」の制作

2022年度に引き続き、関西で活動する放送作家、ディレクターなどの経歴や活動内容を紹介する動画を制作。関西支部の認知度アップを目指し、新たな会員の獲得を狙う。

3) 放送作家によるトークイベントを開催

「ぶっちゃけトーク」に代わる新たなトークイベントを開催し、放送作家の交流を図り、新たな会員の獲得を目指す。

4) 作家協会の会員への仕事を斡旋

協会に加盟するメリットを示すため、会員への仕事の紹介や 業界の情報などを共有できるシステムづくりを目指す。

(文責：谷口隆三)

② 中部支部

1) 中部テレビ大賞の実施

昨年26回目を迎えた「中部テレビ大賞」。30歳以下の若手ディレクターが制作した作品を対象とした形式に変更して今年で7回目を迎える。

中部地方の放送局では、若手の登竜門としてのコンクールとして定着し、中部テレビ大賞を目指して制作に励むディレクターもいるという。毎年10本以上の作品が出品され、中部支部のメンバーが7月に2日ばかりで審査を行う。受賞した作品は、9月に上映会および表彰式を行う。

2) リレーエッセイの継続

2年前の春から、HP上にリレーエッセイの掲載を始めた。

リレー形式は取っているが、ワンテーマでつないでいくのではなく、メンバーそれぞれが様々なテーマで書き綴っていく。毎月掲載しており、今年度も継続していきたい。ぜひ中部支部HPでお読みください。

3) スキルアップ講習会の実施

各界からその道の第一人者を招き、支部メンバーのスキルアップを図るべく講習会を行う。新型コロナの影響もなくなり、本年度からより一層拡充を図っていきたい。

事務局新スタッフとして、加藤紀子(局長・留任)川上智久(新任) 梶田明子は退任
会計は亀子美穂が退任し白石栄里子が就任

(文責:柳瀬元)

(3)九州支部

- 1)従来より開催している放送シナリオ講座の継続。講師陣は支部会員若干名。
(日本放送作家協会九州支部&西日本新聞TNC文化サークル・アイ&カルチャ天神共催)
- 2)シナリオコンクール「第18回南のシナリオ大賞」の運営、ならびに大賞入選作品のウェブ・ドラマ化およびインターネット配信(1年間公開)。
- 3)支部会員主宰による演劇活動の展開(支部会員の書き下ろし脚本をもとに福岡市内の劇場で演劇を公演する)。
- 4)支部ホームページの継続的運営。
- 5)支部運営のための定期的ミーティングを開催予定)。
- 6)そのほか支部活性化のための事業を適宜、採択する。
(支部企画、製作の連続ラジオドラマを予定)

(文責:盛多直隆)

(4)北海道支部

- 1)高校生の放送活動への支援と協力
 - ①NHK杯全国高校放送コンテスト石狩大会の後援および審査員の紹介
 - ②NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会の後援および審査員の紹介
 - ③北海道高等学校文化連盟放送コンテスト石狩大会の後援および審査員の紹介
 - ④北海道高等学校文化連盟放送コンテスト全道大会の後援および審査員の紹介
- 2)新人作家の養成・発掘のための支援と協力
- 3)北海道内放送関連の文化事業への協力と参加
- 4)北海道支部ホームページの充実
- 5)「北海道シナリオ撰集・2025」の刊行

(文責:伊藤正浩)

(5)中国・四国支部

昨年度、「中国・四国支部」と名称変更し、活動エリアも広げました。また念願の支部ホームページも今年度前半には立上げる予定です。このホームページを活用した支部PR、イベントを企画したいと思います。

- 1) 新会員の獲得
今年度も引き続き支部の基盤を作るため、新会員の獲得に力を入れます。
- 2) 支部ホームページの活用
ホームページ立上げにより、支部の認知度・関心度も高まってくると思うので、これに対応できる内容更新をしていきます。
- 3) ショートラジオドラマの制作
支部企画として10～15分のラジオドラマを制作しインターネット配信します。
支部会員によるサンプル的ドラマの制作から始め、ワークショップ型の制作、コンクールによるドラマ公募に発展させたいと思います。
- 4) 地域メディアとの連携
中国・四国地方の放送局、ケーブル局に声掛けし、「地域発ドラマ・ドキュメンタリー」といった地域での放送活動の連携を提案します。

(文責:野津聖治)

VIII. 運営

- 1.財産の安定 収支の安定均衡を図るため、事務局機能のより一層の能率化を目指す

2024年3月31日

一般社団法人日本放送作家協会
理事長 内村宏幸